

サギゴケ科 サギゴケ属

トキワハゼ (常磐爆ぜ)

Mazus pumilus (Burm.f.) Steenis

自生環境

庭の隅、畑地、あぜ など

原産地

日本在来

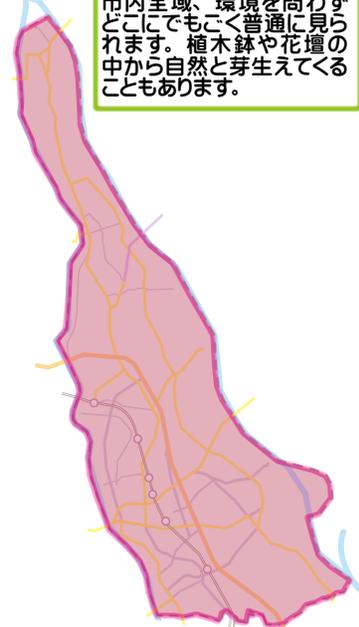
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

身近な場所にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域、環境を問わずどこにでもごく普通に見られます。植木鉢や花壇の中から自然と芽生えてくることもあります。



特徴

- ☆ 公園の隅や道ばた、畑地やあぜなど、いたるところにごく普通に生えている小さな草です。日当たりの良い場所に限らず、建物や樹木の影などで薄暗くてゼニゴケに覆われていたり、土がむき出しになっているような場所でもよく見かけます。ただ、背の高い草が生い茂っているような環境には見られません。
- ☆ 花はうすい紫色で、黄色や橙色の斑紋があります。ごく稀に白い花を咲かせる株もあり、これをシロバナトキワハゼと言います。季節に関係なく、ほぼ周年開花します。
- ☆ ムラサキサギゴケに似ていますが、こちらは1年草で、地を這うような長い茎が伸びることはありません。花はムラサキサギゴケよりも小型で色も淡めですが、両者とも個体差がだいぶあるので、見分けポイントとしてはおススメできません。

花粉を飲み込む

トキワハゼやムラサキサギゴケの柱頭(雌しべの先端部分)はまるで蛇の頭のように2つに裂けていて、口を開けたような状態になっています。そこに昆虫がやってきて、柱頭に接触すると、その刺激で口を閉じます。しばらくするとまた口を開け、接触刺激があると口を閉じます。この動きを柱頭運動と言い、受粉を確実にするための仕掛けと考えられます。



橙色の模様がある



地面を長くはう「ほふく枝」は出さない



がくの中に丸みを帯びた果実ができる



熟すとわれて中から細かいタネがたくさんこぼれる



※観察用に花びらを取り除いてあります。

柱頭は口を開けたヘビのようなかたち



さわるとパクツと閉じる



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

